



令和7年度 幸手保健所新興感染症対応訓練

新興感染症発生を見据えた 地域連携のあり方

かぞくまん



2025年10月30日（木）

埼玉県済生会加須病院

感染管理認定看護師

小美野 勝



本日の内容

1.感染対策における地域連携の変遷

2.COVID-19が地域連携に与えた影響

3.利根医療圏における地域連携の変遷

4.ウィズコロナ時代の地域連携のあり方

5.まとめ





感染制御に関する診療報酬の変遷

1996	院内感染防止対策加算	自施設
2000	院内感染対策未実施減算	
2006	医療安全対策加算	
2010	感染防止対策加算	
2012	感染防止対策加算1・感染防止対策地域連携加算 感染防止対策加算2	地域連携
2018	抗菌薬適正使用支援加算※対策加算は減算	
2022	感染対策向上加算1・指導強化加算 感染対策向上加算2・3、外来感染対策向上加算・連携強化加算	Withコロナ
2024	※高齢者施設等感染対策向上加算・障害者支援施設等感染対策向上加算	



感染対策向上加算の変遷（1996～2011）



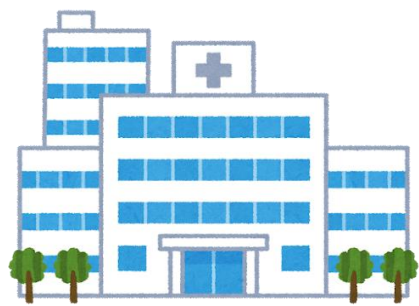


感染対策向上加算の変遷（2012～2021）





感染対策向上加算の変遷（2022～2023）



加算1



加算2



加算3



外来加算



保健所



医師会





診療報酬改訂時の実績評価

感染症対策の推進に係る感染管理認定看護師の取組について

- 所属施設内の感染予防対策に係る活動だけでなく、保健所と連携した地域に対する感染対策の普及活動等、専門性を生かした取組が実践されている。
- 保健所と感染管理認定看護師が継続した連携を進めることで、医療機関だけでなく、様々な分野への介入が可能となり、地域の感染対策の推進につながる事が期待できる。

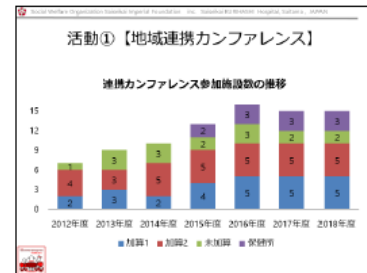
■ 保健所と連携した地域に対する感染対策の取組例（埼玉県済生会栗橋病院） ー埼玉県利根地区での取組ー

- ▶ 地域における全ての施設が感染防止対策加算を算定しているわけではないため、地域全体での取り組みが不可欠。
- ▶ 地域での連携体制を構築するため、3つの活動を実施

目的
① 管轄保健所管内で感染防止対策加算を取得している施設は23施設中10施設のみ。
→ 加算の枠を超えた連携の推進
② 地域包括ケアシステムを構築するうえで介護・在宅領域等との連携も不可欠。

活動内容
① 地域連携カンファレンスの開催（当院主催）
② 感染症担当者連絡会議（保健所主催）
③ 利根感染管理カンファレンス（利根医療圏ICN主催）

- ▶ 直接の連携がない施設や、加算を算定していない施設、保健所も参加、参加施設：15施設、50～60名（発表当時）
- ▶ 地域サーベイランス、地位標準化ツール作成、事例シミュレーション等を実施



カンファレンスの協議内容
2012年度・各施設の取り組みについて（情報共有）
2013年度・職種別ディスカッション「求めること、やるべきこと、できること」
2014年度・事例検討カンファレンス（感染管理・アウトブレイク対応など）
2015年度・各施設の取り組みについて（地域サーベイランスデータの活用）
2016年度・地域標準化ツールの作成
2017年度・多職種連携の推進（多職種ディスカッション）
2018年度・事例シミュレーション（結核・新型コロナウイルス）

- ▶ 保健所主催による感染症担当者連絡会議、保健所と管内のICN（感染管理認定看護師）が連携して連絡会議を開催。
- ▶ 感染症予防対策加算1の算定施設の院内ラウンドを見学し、院内ラウンドを開始した施設や方法を見直す施設も。
- ▶ 保健所管内の手指衛生サーベイランスを実施。管内メーリングリストの運用。

開催日	テーマ	参加人数
2013年12月19日	院内感染防止対策及び地域連携について	29名
2014年7月31日	①アウトブレイク報告 ②結核の最新知見 ③チームにおける各職種の役割	41名
2014年12月11日	個人防護具着脱訓練	38名
2015年10月20日	院内ラウンドについて	41名
2016年 3月 3日	院内ラウンドについて（フォローアップ）	42名

○成果

- ・加算1施設のラウンド見学：延べ13施設
- ・ラウンド開始：1施設
- ・ラウンド方法・チェックリスト見直し：9施設

開催日	テーマ	参加人数
2016年 8月 1日	サーベイランスについて	32名
2017年 3月 3日	サーベイランスについて（フォローアップ）	27名
2017年12月 7日	手指衛生サーベイランス報告	37名

○成果

- ・2016年7月～9月手指衛生サーベイランス（22施設）
- ・2017年4月～手指衛生サーベイランス開始
- ・院内感染対策チェックシート運用開始
- ・メーリングリストの運用開始

- ▶ 利根医療圏の感染管理認定看護師が世話人となり、年2回臨床スタッフ向けの勉強会を開催。
- ▶ 「実技も含めた講演」と、「ディスカッションに時間をかける」ことをポイントとして、臨床現場のスタッフが参加しやすい場を提供

活動③【利根感染管理カンファレンス】
<世話人>
・利根医療圏内感染管理認定看護師
<協力>
・幸手保健所・加須保健所
<開催>
・年2回（6月・10月の予定）19:00～20:30

© 2019 Kansai Medical College Hospital. All rights reserved. 医療・看護・福祉・健康・環境・社会

講習テーマ

	開催日	演題	参加人数
①	2014年10月17日	手指衛生	79
②	2015年6月19日	個人防護具	91
③	2015年11月6日	冬季の感染対策	95
④	2016年6月24日	交差感染防止	107
⑤	2016年10月21日	環境整備	95
⑥	2017年6月15日	院内ラウンド	70
⑦	2017年10月5日	経路別予防策	92
⑧	2018年6月21日	洗浄・消毒・滅菌	89
⑨	2018年11月15日	冬季の感染対策	70

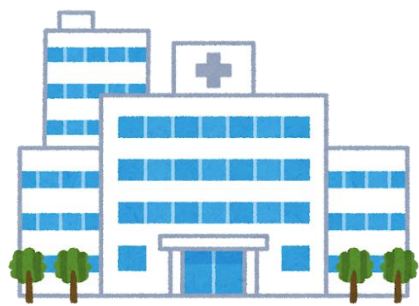


- ・これらの活動を継続的に行うことで医療機関同士の顔の見える連携が推進
- ・サーベイランスの実施やツール共有などの実践的な活動にもつながっている





感染対策向上加算の変遷（2024～）



加算1



加算2



加算3



外来加算



保健所



医師会



高齢者施設

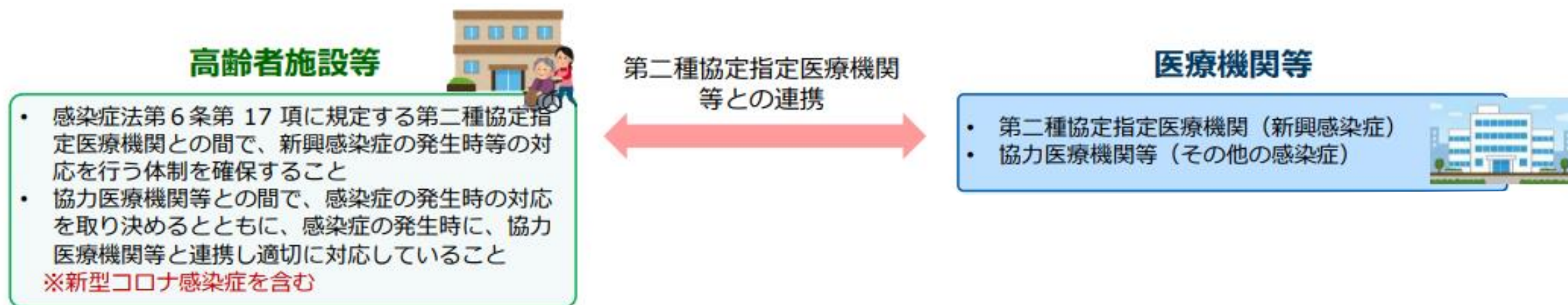




高齢者施設等感染対策向上加算

【加算1】 10単位／月

① 第二種協定指定医療機関等との連携





高齢者施設等感染対策向上加算

【加算1】 10単位／月

②院内感染対策に関する研修または訓練に年1回参加

高齢者施設等



- 感染症法第6条第17項に規定する第二種協定指定医療機関との間で、新興感染症の発生時等の対応を行う体制を確保すること
 - 協力医療機関等との間で、感染症の発生時の対応を取り決めるとともに、感染症の発生時に、協力医療機関等と連携し適切に対応していること
- ※新型コロナウイルスを含む

院内感染対策に関する
研修または訓練に年1回参加



- 診療報酬における感染対策向上加算若しくは外来感染対策向上加算に係る届出を行った医療機関又は地域の医師会





高齢者施設等感染対策向上加算

【加算2】 5単位／月

- ①感染対策向上加算の届出を行った医療機関から
3年に1回以上実施指導を受ける

高齢者施設等



3年に1回以上
実地指導を受ける



医療機関等

- 診療報酬における感染対策向上加算に係る届出を行った医療機関





【医療機関】 感染対策向上加算1・2の施設基準

【介護保険施設等又は指定障害者支援施設等から求めがあった場合】

- ・ 当該施設等に赴いての实地指導等、感染対策に関する助言
- ・ 院内感染対策に関する研修を施設等と合同で実施

上記を行うことが望ましい





本日の内容

1.感染対策における地域連携の変遷

2.COVID-19が地域連携に与えた影響

3.利根医療圏における地域連携の変遷

4.ウィズコロナ時代の地域連携のあり方

5.まとめ





COVID-19が地域連携に与えた影響

- ①行政との連携強化
- ②日常の感染対策の重要性を再認識
- ③病院以外の組織との地域連携の必要性





COVID-19が地域連携に与えた影響

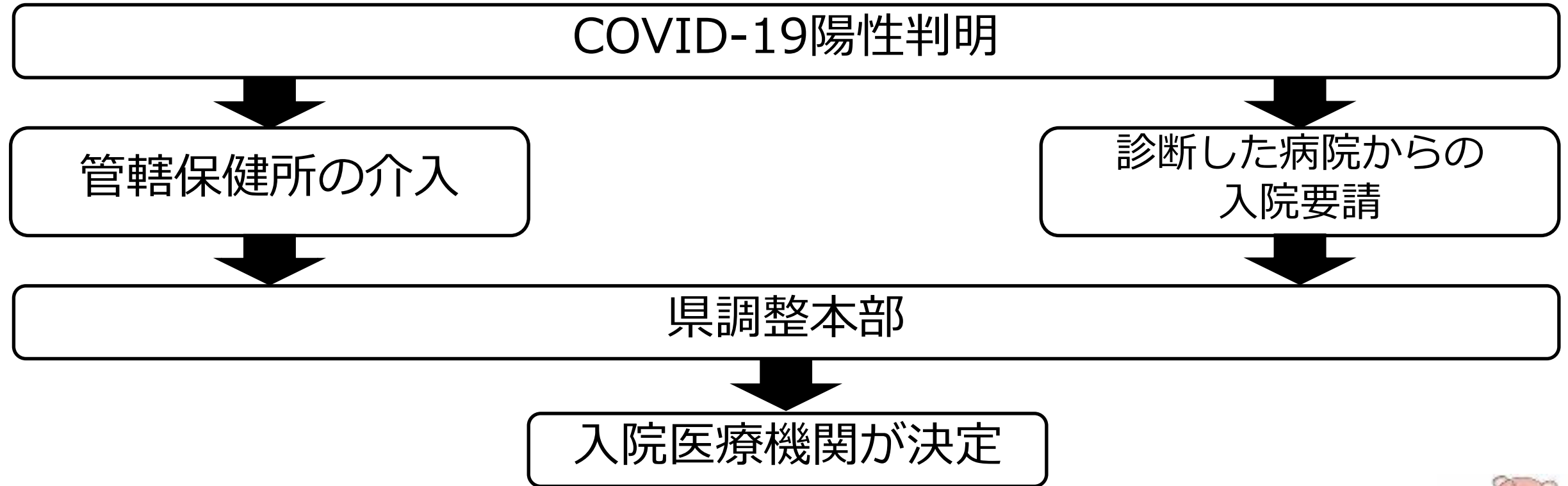
①行政との連携強化

- (1)入院調整
- (2)ワクチン接種
- (3)クラスター対応





【埼玉県のCOVID-19入院フロー（～2023年5月8日）】





埼玉県の主な取り組み

名称	活動内容
①COVMAT	・ クラスター発生施設への現地支援
②e-MAT（オンライン支援）	・ 高齢者施設への優良施設認証 ・ 高齢者施設へのクラスター支援
③リリーフナース制度	・ 高齢者施設へのリリーフナース（看護師）派遣
④COVID-19受け入れ支援	・ 受け入れ予定施設の準備支援
⑤酸素ステーション	
⑥宿泊療養施設	
⑦宿泊療養施設による点滴治療	・ ホテルでロナプリーブの点滴治療



仮設病棟の運用で感じたジレンマ

【高齢者施設クラスターによる受け入れ患者数の増加】

①介護度の上昇・スタッフの疲弊

高齢者施設の感染対策が
向上しない

②ADLの低下

③施設への退院困難事例が増加

施設入所者の
生活が維持できない





COVID-19が地域連携に与えた影響

②日常の感染対策の重要性を再認識

【医療機関におけるクラスター発生事例の感染対策拡大要因】

- ・ 基本的な手指衛生の不徹底
- ・ 不十分あるいは不適切な個人防護具の使用
- ・ COVID-19が疑われていない場合の不十分な標準予防策
- ・ 不適切なゾーニング





施設支援で感じたジレンマ

【日常的な感染対策の理解と実践】

①疾患別予防策は徹底できているが、標準予防策の認識が低い

→感染症が収束すると・・・

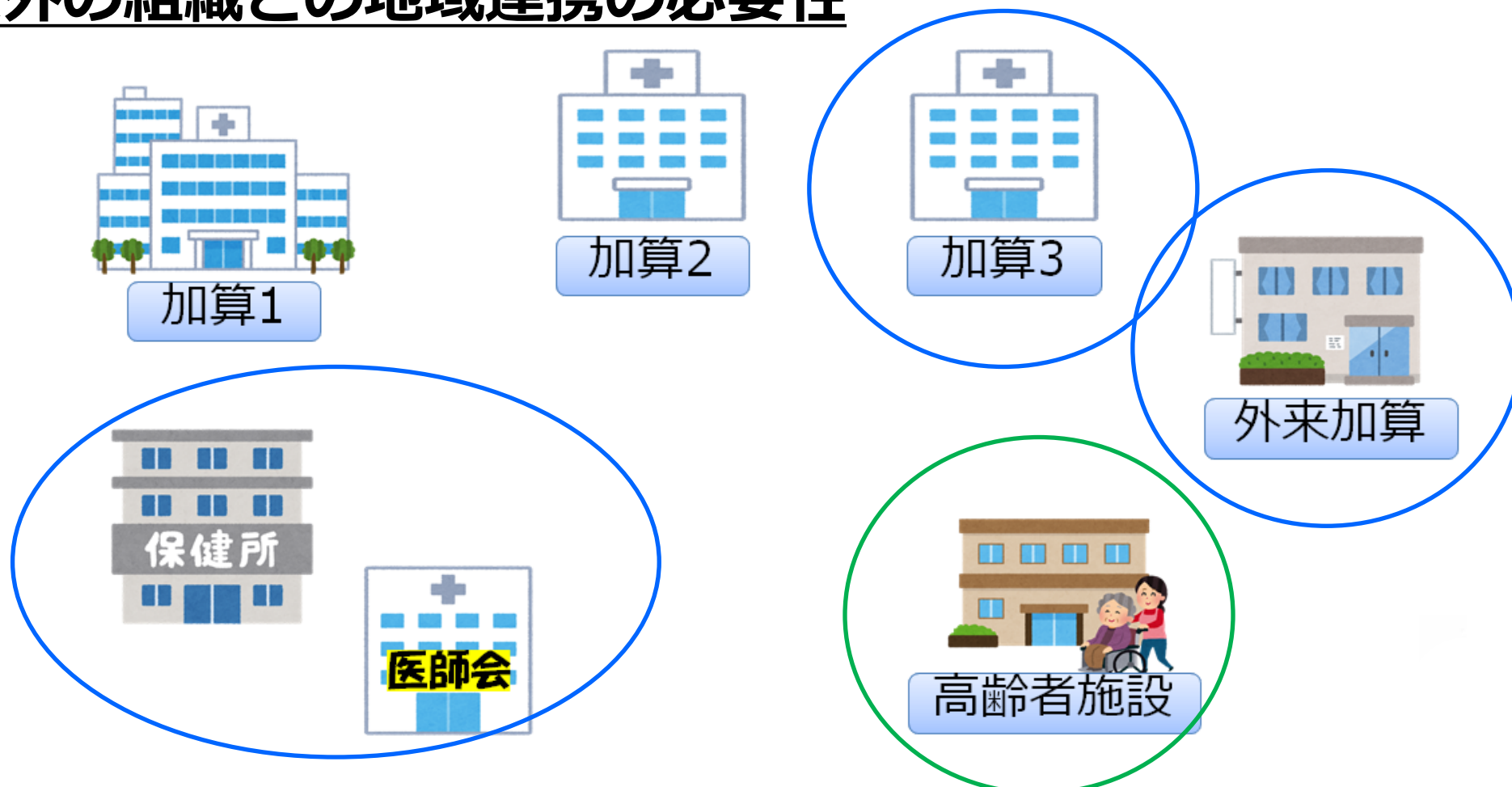
- ・おむつ交換時にエプロンは必要ですか？
- ・環境整備はアルコールを噴霧しています！





COVID-19が地域連携に与えた影響

③病院以外の組織との地域連携の必要性





本日の内容

1.感染対策における地域連携の変遷

2.COVID-19が地域連携に与えた影響

3.利根医療圏における地域連携の変遷

4.ウィズコロナ時代の地域連携のあり方

5.まとめ





活動内容

①地域連携カンファレンスの開催（当院主催）

②感染症担当者連絡会議（保健所主催）

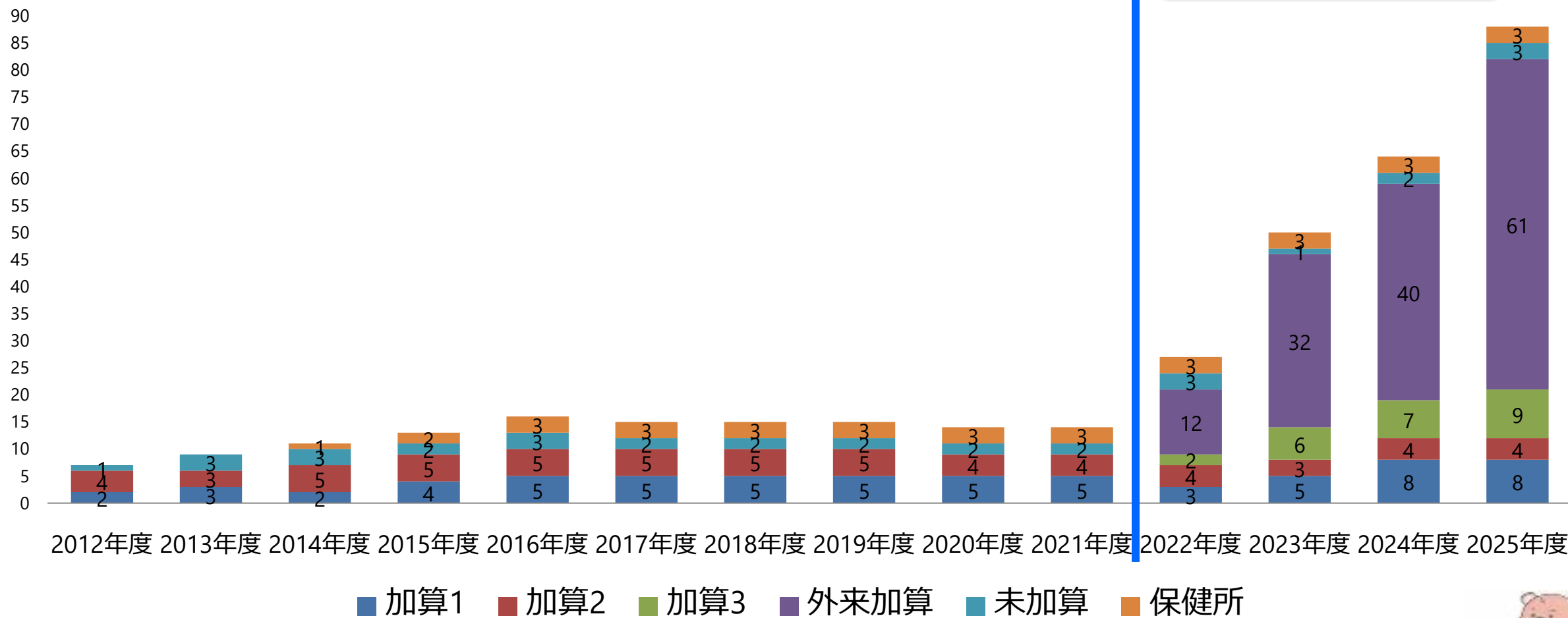
③利根感染管理カンファレンス（利根医療圏ICN主催）





地域連携カンファレンス参加施設の推移

加算3・外来加算新設
保健所参加義務化



カンファレンスの協議内容

2012年度	・ 各施設の取り組みについて （情報共有）
2013年度	・ 職種別ディスカッション 「求めること・やるべきこと・できること」
2014年度	・ 症例検討カンファレンス （個室管理・アウトブレイク対応など）
2015年度	・ 各施設の取り組みについて （地域サーベイランスデータの活用）
2016年度	・ 地域標準化ツールの作成
2017年度	・ 多職種連携の推進 （多職種ディスカッション）
2018年度	・ 事例シミュレーション （結核・新型インフルエンザ対応）
2019年度	・ 地域の連携強化に向けて （SWOT分析）

※平成2014年度から地域サーベイランス開始



SWOT分析とは

- ・ 自施設を取り巻く環境を分析するフレームワーク

項目	強み (Strengths)	弱み (Weaknesses)
機会 (Opportunities)	自施設の強みを活かして機会を活用する戦略を考える	自施設の世網で機会の逃さない戦略を考える
脅威 (Threats)	自施設の強みで脅威に対抗する戦略を考える	自施設の弱みが脅威にさらされない戦略を考える



SWOT分析（2019年地域連携カンファレンス）

<強み> 顔の見える連携 保健所と連携	<弱み> 感染症専門医が不在 後任の育成
<機会> 情報共有の機会 保健所・県主催研修	<脅威> 外国人の増加・国際イベント SNS等の様々な情報





地域連携カンファレンスの成果

①アルコール使用量の増加（1000患者日あたり）

- ・ 3.4L → 13.0Lに増加

②地域のCOVID-19受け入れ体制の強化

- ・ 11医療機関中9施設がCOVID-19の受け入れを実施

③日常的な感染対策の実践

- ・ 地域連携カンファレンス訓練後の対応見直し





感染症担当者連絡会議（幸手保健所主催）

開催日	テーマ	参加人数
2013年12月19日	院内感染防止対策及び地域連携について	29名
2014年7月31日	①アウトブレイク報告 ②結核の最新知見 ③チームにおける各職種の役割	41名
2014年12月11日	個人防護具着脱訓練	38名





感染症担当者連絡会議（幸手保健所主催）

開催日	テーマ	参加人数
2015年10月20日	院内ラウンドについて	41名
2016年 3月 3日	院内ラウンドについて（フォローアップ）	42名

○成果

- ・ 加算1施設のラウンド見学：延べ13施設
- ・ ラウンド開始：1施設
- ・ ラウンド方法・チェックリスト見直し：9施設





感染症担当者連絡会議（幸手保健所主催）

開催日	テーマ	参加人数
2016年 8月 1日	サーベイランスについて	32名
2017年 3月 3日	サーベイランスについて（フォローアップ）	27名
2017年12月 7日	手指衛生サーベイランス報告	37名

○成果

- ・ 2016年7月～9月手指衛生サーベイランス（22施設）
- ・ 2017年 4月～手指衛生サーベイランス開始
- ・ 院内感染対策チェックシートの運用開始
- ・ メーリングリストの運用開始





幸手保健所主催研修会

開催日	対象・テーマ	参加人数
2015年 5月23日	特別養護老人ホーム（感染性胃腸炎）	30名
2015年11月18日	高齢者施設（冬季の感染対策）	50名
2016年11月17日	障がい者施設（冬季の感染対策）	23名
2016年12月 1日	高齢者施設（冬季の感染対策）	57名
2017年10月23日	保育施設（手指衛生・吐物処理・おむつ交換）	41名



加須保健所管内の取り組み

開催日	対象・テーマ
2016年 8月 4日	医療安全研修会 ・施設における感染対策の推進～院内ラウンドを始めよう～
2017年 8月 8日	感染対策担当者連絡研修





2022年度以降の加須保健所の取り組み

開催日	対象・テーマ
2022年 1月14日	在宅難病患者支援者研修会及び感染症予防研修会
2023年 7月 6日	高齢者・障がい者施設における感染対策研修会
2023年 8月24日	医療機関感染対策担当者会議
2024年 9月 5日	高齢者施設向け感染対策研修会
2024年11月20日	医療機関感染症担当者連絡会 ※個別相談会実施





加須保健所との合同訓練

【感染症患者移送訓練】 2024年10月1日





利根感染管理カンファレンス（管内ICN主催）

<世話人>

- ・利根医療圏内感染管理認定看護師

<協力>

- ・幸手保健所・加須保健所

<開催>

- ・年2回（6月・10月の予定）19:00～20:30

「TONE感染管理カンファレンス」

現場に寄り添った感染対策を目指して！
「日頃の悩みを気軽に話そう」「垣根を超えた交流をしよう」
そんな思いで、この会を創設しました。私たちと一緒に歩んで
いきませんか？

開催日時：2014年10月17日（金） 19:00～
場所：三高サロン 久喜市久喜中央4-9-83 TEL0480-23-5522
製品紹介 環境除菌洗浄剤「ルビスタ」紹介

1、世話人挨拶と紹介	19:00～19:10
2、講演 （座長）小美野 睦 「手指衛生について」 国立病院機構 東埼玉病院 池田 敦子	19:10～19:40
3、フリーディスカッション 日頃、お困りの事柄について気軽に持ち寄り下さい	19:40～20:00
4、保健所連絡 幸手保健所、加須保健所	20:00～20:15
5、次回幹事挨拶	20:15～20:30

世話人
松村千秋（東埼玉総合病院）
小美野睦（済生会栗橋病院）
池田敦子（国立病院機構 東埼玉病院）
岩間政和（久喜総合病院）

*会費1,000円昼付にて徴収させていただきます。尚、軽食の用意があります。



講習テーマ

	開催日	演題	参加人数
①	2014年10月17日	手指衛生	79名
②	2015年6月19日	個人防護具	91名
③	2015年11月6日	冬季の感染対策	95名
④	2016年6月24日	交差感染防止	107名
⑤	2016年10月21日	環境整備	95名
⑥	2017年6月15日	院内ラウンド	70名
⑦	2017年10月5日	経路別予防策	92名
⑧	2018年6月21日	洗浄・消毒・滅菌	89名
⑨	2018年11月15日	冬季の感染対策	70名



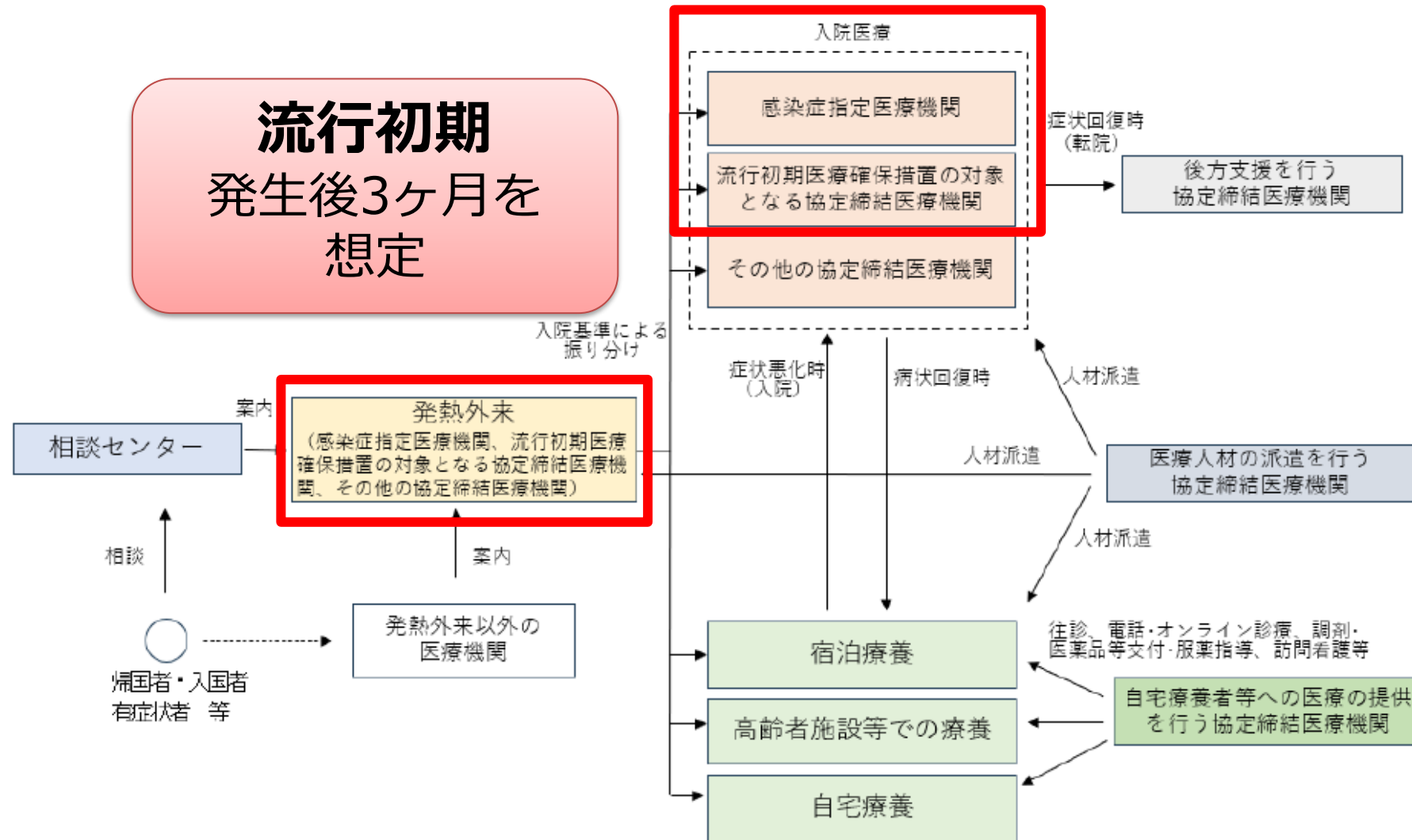
本日の内容

1. 感染対策における地域連携の変遷
2. COVID-19が地域連携に与えた影響
3. 利根医療圏における地域連携の変遷
- 4. ウィズコロナ時代の地域連携のあり方**
5. まとめ



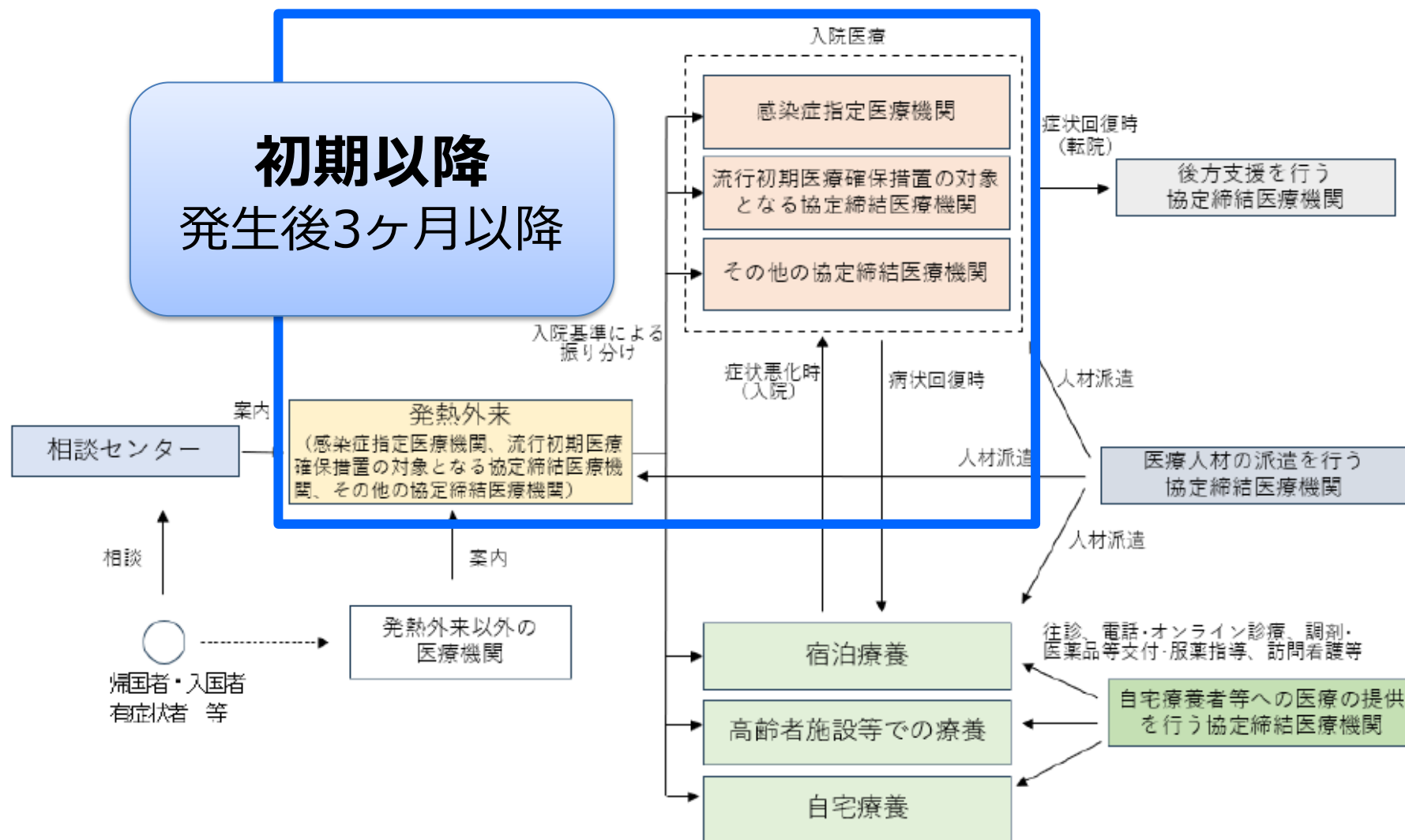


都道府県：地域における医療関連の司令塔





都道府県：地域における医療関連の司令塔





協定締結医療機関

【第一種協定指定医療機関】 病床確保を行う協定締結医療機関

- ・ 利根医療圏：26施設（病院23・有床診療所3）

【第二種協定指定医療機関】 発熱外来を行う協定締結医療機関

- ・ 利根医療圏：128施設（病院24・有床診療所7・無床診療所97）





ウィズコロナ時代の地域連携

①さまざまな領域との連携強化





ウィズコロナ時代の地域連携

②地域全体で推進する感染対策

(1)日常的な感染対策の推進

- ・ 標準予防策・感染経路別予防策の共通理解

(2)耐性菌対策

- ・ 病院・施設機能別の感染対策





ウィズコロナ時代の地域連携

③感染症発生時の相互支援

(1)顔の見える連携の強化

- ・ 感染対策向上加算
- ・ 保健所主催連絡会議
- ・ 高齢者施設等感染対策向上加算による連携

(2)クラスター発生時の相互支援（相談対応・COVMAT等）





COVID-19対策で効果的だった対策

- ①最新知見の積極的な収集
- ②院内ルールの明確化
- ③マニュアルの速やかな更新と情報共有
- ④スタッフ相互の意識付け
- ⑤積極的な受け入れにより経験値を増やしていったこと
 - 地域連携・認定看護師のネットワーク活動
- ⑥地域支援の経験・知見を自施設に還元
 - 行政との連携活動





本日の内容

- 1.感染対策における地域連携の変遷
- 2.COVID-19が地域連携に与えた影響
- 3.利根医療圏における地域連携の変遷
- 4.ウィズコロナ時代の地域連携のあり方

5.まとめ





まとめ

- ①感染対策を推進するうえで、地域ぐるみの取り組みが重要です
- ②医療機関だけではなく、行政を交えたさまざまな領域との顔の見える連携が必要です
- ③これまでの取り組みで培われた連携をさらに強化していき、地域全体の感染対策向上につなげていきましょう

